

資料4 今後の図書館運営について

子どもたちの読書離れ対策 電子書籍サービスの活用

<現状>子どもたちを取り巻く環境の変化

- ・読書時間の減少 … コロナ禍で授業時数の確保が優先され、朝の読書時間が減少
- ・学習環境の変化 … タブレット端末の利用頻度が増えたことにより本に触れる機会が減少
- ・学校図書館の環境 … 蔵書数はあるが、内容の古い本が多いことや空調設備の設置のない学校が多い

対策の方向性

- ① 幼少期からの読書習慣づくり
 - ・様々な本との出会いの設定
- ② 保護者を巻き込む仕掛け
 - ・子育て施策との連携
- ③ 学齢期における読書環境づくり
 - ・学校と図書館の連携による読書環境づくり
- ④ デジタルネイティブ世代へのアプローチ
 - ・タブレットやSNSの活用
 - ・電子書籍閲覧サービスの活用

電子書籍閲覧サービスの活用（案）

- ◎目的：子どもたちの読書のきっかけづくり
～電子書籍閲覧サービスの特長～
 - ・朝の読書、調べ学習、英語学習など子ども向けコンテンツが活用できる
 - ・文字の拡大、音声読み上げなどの便利機能
 - ・書き込みなど汚破損の心配がない

<当面の対応>

- ・「青空文庫（電子書籍無料サービス）※」の活用
- ・新潟県全体での導入に向けた協議への参加

※青空文庫：日本の電子書籍サービス。著作権が消滅した作品や著者が許諾した作品を、電子書籍で公開し無料で提供している非営利のサイト。

小さな図書館でサービスを届ける これからの移動図書館車

<現行使用車両>

- ・車両保有台数 2台（①平成21年式②平成23年式）
- ・車両サイズ マイクロバス
- ・購入金額 ①9,185千円 ②9,867千円

<運行方法>

- ・図書館から離れた地域への定期運行（54箇所）
- ・要請による学校訪問

<運行経費> 年間約3,026千円 ※職員人件費含まず
運転業務2,505千円・維持管理（燃料・整備・保険等）521千円

●課題

- ① 車両の老朽化
- ② 利用者の減少
- ③ デジタル化の進展

○課題解決に向けた今後の展開

「遠隔地向けサービスのツール」から
「読書の楽しさを伝えるツール」へ

これからの移動図書館車（更新パターン）

- 1) 現行車両と同サイズで更新
- 2) 車両サイズを変えて（小型化して）更新
（例：マイクロバス→軽トラックサイズ）

※更新台数：遠隔地向けのサービス提供のあり方、今後の活用方法等を踏まえ検討

<車両の特性>

- ・マイクロバスサイズ：全天候型
- ・小型サイズ（軽トラック）：機動力重視

図書館におけるDXの推進 利便性向上・利用者拡大

<図書館における取組>

【図書館利用者カードを持っている方向け】

- ◎図書館アプリ（スマートフォン向け）の提供
[令和5年11月～]

- ①蔵書検索、予約機能
- ②スマートフォンへの利用者カード番号の表示機能
- ③予約した本の貸出準備が出来たことをお知らせするプッシュ通知機能

<参考> **アプリのダウンロード数：37件**
（令和6年2月～5月31日まで）



●課題：アプリのダウンロード数の伸び悩み

【図書館利用者カードを持っていない方向け】

- ◎インターネット（オンライン）での新規利用登録
～マイナンバーカード連携による利用登録～
- ・総務省委託事業を活用しシステム開発
[サービス提供開始：令和6年3月15日～]
- <参考> **新規利用登録者数：8件**
（令和6年3月15日～5月31日まで）

●課題：現在、図書館利用者カードを持っていない方へのアプローチ

利便性向上・利用者拡大に向けた取組

- ・アプリ利用拡大に向け、図書の貸出時にカウンターでチラシを配布
- ・市公式SNSで広報予定
（App Storeは公開中、Google Play 現在認可待ち）